

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

※No1778長期前兆、No2443中長期前兆以外、関東、東海、東南海、南海領域での大型被害地震が推定される前兆は現在まで観測されておられません。No2443前兆はFAXによる実験観測情報No2510-1/2 2/2参照。富士山火山活動前兆も観測されておられません。

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

※右図上=No1778前兆の第7ステージ認識前兆の出現状況図。

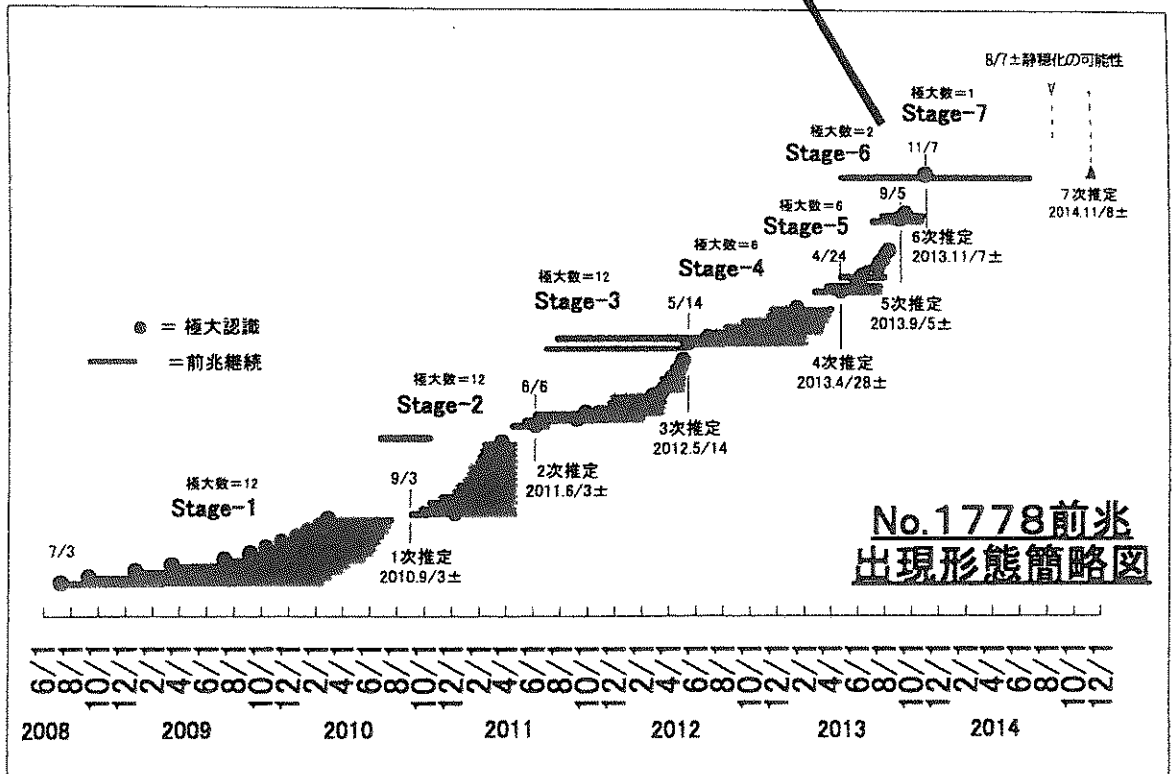
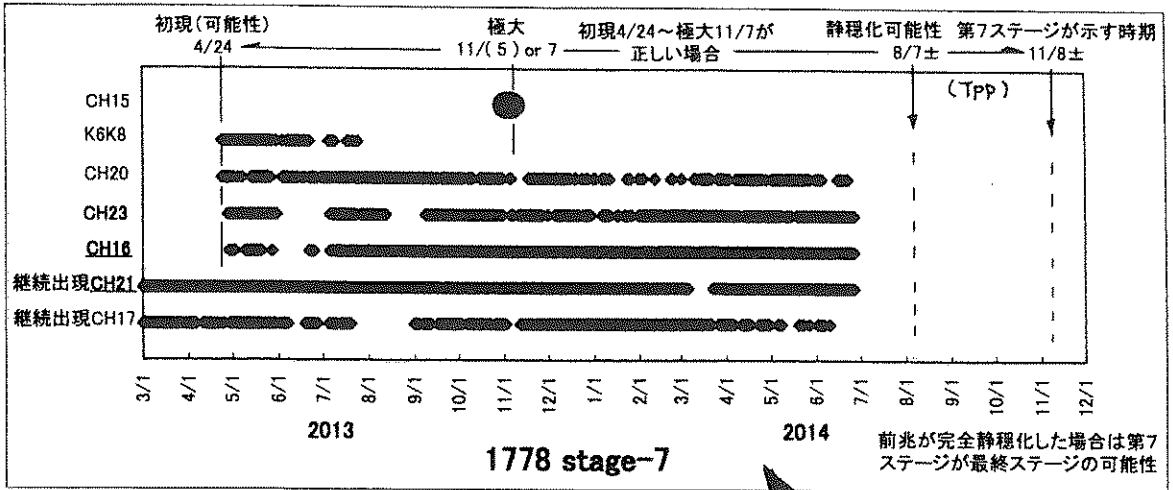
前兆は特異状態が主。但し基線が糸状態となる顕著特異も、通常基線幅に変動がある特異状態も同じ◆マークで示してある。

本年06月以降、前兆は全体傾向として減衰傾向認識。

第7ステージの極大は2013年11月07日のひとつのみと認識され、その後顕著な新たな前兆継続出現や新たな極大認識もできないため、本第7ステージが最終段階である可能性は否定できない。

最近までのA2, A4, 継続出現のCH6, CH7, 34等の前兆はNo1778とは異なる領域での地震前兆No2443認識。観測情報参照。

※右下図はNo1778前兆の初現2008年07月から現在までの段階的出現変化を簡単に示した模式図。



No1778長期継続特殊前兆につきましては、日々の実験観測情報で報告のとおり前兆全体は減衰傾向。現在までの認識が正しい場合は、08月07日±時期に前兆静穏期に入る可能性が示唆され、この静穏期突入が観測された場合は、最も早い推定時期として11月08日±が計算できます。実際の前兆終息を観測して再考予定。CH17=ほぼ静穏状態維持。CH20=断続的特異出現ですが現状静穏基線維持。CH16, CH21, CH23のみ特異状態継続中。但しCH21は基線幅をもった変動で糸状態特異ではありません。上図の前兆出現マークは糸状特異も弱い特異も同じマークですが、全体として前兆減衰傾向。2013.11/7 CH15極大について、CH15の受信機設定周波数が極く僅かに低い側にズレていました。前兆出現影響局として、延岡200wだけでなく、新居浜100wもありますので、推定領域は現在推定(既報告済)領域で変更はありません。08月上旬に前兆終息するが注目です。 C) Copyright 2014 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

※本続報は、FAXによる実験観測情報No2512 (6/27 14:30配信) の一部を転載させて頂きました。ご了承下さい。